

生涯学習概論				単位数	2単位
授業コード	16695	科目ナンバリング	550Z0-1000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	松橋 義樹				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
社会の様々な場面で多様な学習者への学習支援に携わる上での基本的資質・素養を身に付けるため、生涯学習の理念、社会教育の意義と展開、生涯学習社会の実現における学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について講義します。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 生涯学習の理念の歴史的・国際的動向について説明することができる。			知識・技能	
2	2. 社会教育の意義と展開について説明することができる。			知識・技能	
3	生涯学習社会の実現のための学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働のあり方について考察することができる。			思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	学期末レポート (50%)			1/2/3	
2	中間レポート (25%)			1/2	
3	毎回の授業終了時に提出するコメント (25%)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 教育と学習の多様性					
第2回 教育と学習の関係					
第3回 「生涯学習」という言葉					
第4回 生涯学習の理念 (1) : 生涯教育論の登場					
第5回 生涯学習の理念 (2) : 生涯教育論の変容					
第6回 生涯学習の理念 (3) : 生涯教育と生涯学習の関係					
第7回 日本における生涯学習 (1) : 学歴社会と生涯学習社会					
第8回 日本における生涯学習 (2) : 青少年教育と生涯学習支援					
第9回 日本における生涯学習 (3) : 成人教育と生涯学習支援					
第10回 社会教育の定義					
第11回 社会教育の特徴					
第12回 生涯学習と社会教育					
第13回 学校教育と社会教育					
第14回 学校・家庭・地域の連携・協働の意義と生涯学習					
第15回 学校・家庭・地域の連携・協働の方向性と生涯学習					

<b>試験等</b> 学期末レポート（50%）、中間レポート（25%）、毎回の授業終了時に提出するコメント（25%）の合計点で評価します。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 中間レポートについては、希望があれば添削を行います。 毎回の授業終了時に提出するコメントについては、次回の授業で取り上げ解説します。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 事前学習（2時間）にかんしては、一つ前の回の授業終了時にあらかじめ出題する課題について、考察した内容を整理してください。 事後学習（2時間）にかんしては、毎回の授業の内容を、これからの社会における多様な学習者の学習支援へどのように反映させればよいのか考察してください。
<b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>&lt;参考書&gt;</b> 参考書は授業時に紹介します。
<b>オフィスアワー</b> 質問等はEメールで受け付けます。
<b>連絡先</b> s8293@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 本科目は、全15回をオンデマンド型遠隔授業で行います。授業ではGoogle Classroomを使用しますが、詳細については初回の授業までにmanaba folioの本科目のコースでアナウンスします。

博物館概論				単位数	2単位
授業コード	16700	科目ナンバリング	550Z0-1000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
博物館・美術館の歴史をたどり、博物館の目的と機能や関係法規に関する基礎的知識を習得することを目的とする。さらに博物館の今日的課題ひいては、博物館の未来像を博物館倫理も踏まえながら探求する。また、個々の学芸員がどのような倫理(モラル)とモチベーションを持ちながら博物館活動をおこなっているかを、具体例を示しながら、改めて「学芸員」とは何か?について考察する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博物館・美術館の市民社会における役割を認識し、そのための機能・内容等についての最新状況を含めて説明できる。				
2	博物館法という最低限の「申し合わせ」を認識し、それについて具体的に説明できる。				
3	博物館としてのポリシー、個としての学芸員のポリシーを具体的に論じることができる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート(2回) 100%				1/2/3
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館の存在意義-博物館と国民の文化的欲求-</li> <li>2 学芸員とは何か-研究、展示、教育普及、資料保存-</li> <li>3 博物館の分類-専門博物館と総合博物館-</li> <li>4 博物館の倫理-学芸員の倫理性-</li> <li>5 博物館利用の方法-教育機関としての博物館-</li> <li>6 海外の学芸員-その社会的ステイタス-</li> <li>7 従来の博物館学-デッドミュージアムとは何か-</li> <li>8 博物館法の問題点-博物館を生かす為の「法律」-</li> <li>9 日本人的思考回路-明治以降の学校教育-</li> <li>10 博物館前史-社会文化からみたヨーロッパと日本の比較-</li> <li>11 近代博物館の出発-展示資料の文化的背景-</li> <li>12 開かれた博物館の誕生-「物」から「事」へ-</li> <li>13 これからの博物館に必要なもの-グローバル化と地域密着型-</li> <li>14 学芸員の活動紹介-個と市民-</li> <li>15 展覧会プロデュース-他分野の専門家との共同作業-</li> </ol>					

試験等
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社 『博物館を考える-新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社 ※購入方法についてはおって指示する <参考書等> なし
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料論				単位数	2単位
授業コード	16710	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	橋本 龍				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
博物館の資料とは、博物館活動の基礎をなす、必要不可欠なものである。資料無くしては、研究も展示も教育も成り立たない。博物館資料とは何か、また資料の収集や登録・整理保管に関する理論や方法を実例に即して把握し、資料を取り扱う上での基礎的な知識を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	①博物館における資料の基本的な分類と、収集や登録・保管管理に関する理論や方法を及びその活用を説明できる。				
2	②それぞれの資料の特徴や歴史的・美術史的な意義を説明できる。				
3	③資料の取り扱いに関する注意点を理解し、実際に扱うことができる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	博物館資料について(講義第1回～第4回)のレポート(40%)				1
2	博物館資料の活用(講義第5回～第7回)についてのレポート(40%)				1/2
3	実習態度(20%)				1/2/3
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
自然科学博物館の技術者・東洋古美術を扱う美術館の学芸員として、資料収集(発掘調査)、資料の管理及び展覧会などの企画・運営、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史などに関する調査などに従事した経験から、多様な博物館資料について実践的な講義を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 博物館資料の概念 2 博物館資料の収集Ⅰ-収集の理念と資料の分類- 3 博物館資料の収集Ⅱ-博物館資料になるまで- 4 博物館資料の収集Ⅲ-収集の課題- 5 博物館資料の公開Ⅰ-研究・展示- 6 博物館資料の公開Ⅱ-展示見学(林原美術館見学)- 7 資料の劣化要因と保存・修復 8 資料取り扱いの基礎知識(実習Ⅰ) 9 能装束と能面 10 書跡・典籍・絵画資料 11 掛軸・巻子の取扱い(実習Ⅱ) 12 漆工品と陶磁器 13 刀剣および金工品 14 刀剣の取り扱い(実習Ⅲ) 15 博物館資料の現状と未来					

<b>試験等</b> レポート提出 (2回)
<b>試験のフィードバックの方法</b> 締切後の講義内で解説を行う。
<b>準備学習 (予習・復習) に必要な学修内容・時間</b> (予習) 予定されているテーマについて、関連する文献等で確認を行い、疑問点をまとめて質問が出来るようにしておくこと。 (復習) 講義で配布した資料、紹介した図書にて理解を深める。 予習・復習で2時間程度の学習時間が望ましい。 このほか、自由時間等で博物館・美術館を訪問したり、博物館について最新の情報に関心を持ってほしい。
<b>必携書 (教科書販売)</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<b>必携書・参考書 (教科書販売以外)</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> なし <参考書> 参考書は講義時に適宜紹介する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は授業後に受け付ける。
<b>連絡先</b> E-mail : s8334@m.ndsu.ac.jp  林原美術館 Tel : (086) 223-1733 E-mail : ryo.hashimoto@hayashibara-museumofart.jp
<b>留意事項</b> ・博物館の展示見学を行うが、訪問する館によっては入館料が必要な場合がある。その際の費用は自己負担とする。

博物館経営論				単位数	2単位
授業コード	16720	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	紺谷 亮一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
<b>本授業の概要</b> 昨今の博物館における職員・施設・設備について具体例を示すことによって、博物館を“経営”するとはいかなる事かについて考察する。また、博物館における情報にはどのようなものがあるかを習得する。そして博物館の機能を、運営と情報発信の立場から概説する。研究と展示そのほかの活動とが、完全に一体として運営される方式が今日、求められている事を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博物館が情報の発信機関としてどのような役割を果たすべきか、論じることができる。				
2	博物館経営について、博物館の持っている多様な情報をいかに市民に還元しうるか、また、博物館における連携とは何か、ということを説明することができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート(2回) 100%				1/2
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 博物館経営とは-その概念- 2 博物館ブーム-高度経済成長と市民の知的欲求- 3 博物館経営の具体例-職員、施設、設備- 4 行政と博物館経費-地方公共団体の運営事情- 5 博物館経費-人件費、委託費、光熱費等の支出- 6 日本の博物館総数-博物館経営の現状と博物館法の問題点- 7 入館者数の推移-高度経済成長、バブル経済破綻、低成長時代を越えて- 8 博物館の情報発信-市民参画の具体例- 9 あるべき博物館像-理想郷としての博物館- 10 後継者の養成-学芸員課程再考- 11 これからの博物館-新概念ミュージアムの挑戦と挫折- 12 世界へ向けての発信-博物館の連携とは- 13 博物館の知名度 14 博物館の情報媒体-ミュージアムグッズ- 15 マスコミとの連携-地域活性化の視点から-					
※社会教育主事に関しては、2009年度以降入学生対象					

試験等
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『博物館を考えるⅢ』，水藤真，山川出版社 『博物館を考える-新しい博物館学の模索』，水藤真，山川出版社 ※購入方法についてはおって指示する。 <参考書等> なし
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館資料保存論				単位数	2単位
授業コード	16731	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	植野 哲也				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>文化財の公開・活用と維持・保存とを両立させることは、博物館にとって重要な課題であり、担当学芸員には十分な知識の習得と、的確な対応、そして日々の努力が必要とされる。科学的見地から資料の材質と劣化要因を知り、各材料・各資料に適切な保存環境及び環境制御の方法に関する基礎的知識を学ぶ。あわせて博物館における危機管理や、資料の活用と保存について検討する。</p> <p>授業では、講義だけでなく、各授業において担当を決め、テーマに沿って事前の下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、プレゼンテーションを行っていただく。その後全員でディスカッションを行いながら授業内容を深めていただく。</p> <p>評価は授業でのプレゼンテーション及びディスカッション、2回のレポート提出をあわせて総合的に行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博物館における「資料保存」とは、資料を収蔵庫で単に保管することを意味するものではない。現在まで伝えられてきた資料を未来へ引き継いでいくためには、法制度やその歴史、資料の材質や状態、展示・収蔵環境などにおける科学的知見、災害などに対する危機管理を含めた、多岐に渡る知識と技能が必要とこれらを習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養い応用することができる。				
2					
3	授業においてプレゼンテーションするための事前のグループワーク及びレジュメ作成、授業をもとにした美術館見学のレポート作成することによって、内容を整理し表現することができる。				
4	プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の意見を簡潔に説明することができる。				
5	美術館見学を通して、資料保存の視点から作品展示の工夫を論じることができる。				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度(レジュメ作成、プレゼンテーション・ディスカッション) 60%				1/2/3/4
2	レポート 40% ※展覧会見学に合わせてレポートを課す。				1/2/3/5
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
美術館の学芸員として、展覧会やイベントの企画・運営・管理、文化財を通じた日本の文化・美術・歴史・伝統工芸などに関する研究、それらに関連する講演やギャラリートークなどに延べ16年間従事した経験から、博物館資料保存に関する実践的な講義を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス 文化財の保存とは 2 文化財保存の歴史 -文化財保護法の成立まで- 3 文化財保存の歴史 -法制度の変遷と諸施設- 4 文化財ごとの収蔵方法 5 文化財保存のための資料調査 -調書作成、化学調査- 6 資料の貸借のための諸作業 -評価額の把握、梱包・輸送- 7 展覧会見学・レポート(1) 8 資料の劣化要因と保存・予防(1) -温湿度の測定と環境制御- 9 資料の劣化要因と保存・予防(2) -光と照明基準と展示活動- 10 資料の劣化要因と保存・予防(3) -IPMの概念と概略、カビ対策- 11 資料の劣化要因と保存・予防(4) -室内空気汚染と屋外環境整備- 12 資料の保存修理について 13 博物館における危機管理と資料保全-災害への対策- 14 展覧会見学・レポート(2) 15 海外博物館における資料保存の考え方					

<p><b>試験等</b> 各授業ごとに担当グループを決め、プレゼンテーションしていただく。そのためのグループワーク及び、レジュメ制作を行っていただく。 2回行う課外授業での企画展見学を通して、レポート提出をしていただく。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 授業中に指示する。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各授業において講義を行うだけでなく、担当を決め、テーマに沿って事前の下調べとグループワークを行い、レジュメを作成し、授業ではプレゼンテーションを行い、その後全員でディスカッションをしていただく。各発表に対し、疑問を持って聞くことで、積極的な質疑から互いに内容理解を深めてほしい。（各グループでプレゼンテーション時の事前準備に約3時間）</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考</p>
<p>&lt;参考書等&gt; 『文化財保存環境学 第2版』三浦定俊・佐野千絵・木川りか著、朝倉書店 授業中に、適宜資料配布する。</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 質問は授業後に受け付ける。</p>
<p><b>連絡先</b> E-mail : s8316@m.ndsu.ac.jp  林原美術館 Tel : (086) 223-1733 E-mail : tetsuya.ueno@hayashibara-museumofart.jp</p>
<p><b>留意事項</b> 教科書は特に用いない。 その都度、必要資料を配布する。 博物館等で展覧会の見学を行うことがあるが、その際の費用は自己負担とする。</p>

博物館展示論				単位数	2単位
授業コード	16735	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山口 雄治				
時間割備考	2024/9/4~6				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>展示・展覧会は、博物館・美術館に訪れるほとんどの人々にとって、来館の第一の目的といってよいであろう。したがって、博物館・美術館にとっても、最も時間、労力、費用を投入すべき事業である。来館者は、展示室に作品が陳列された、完成状態しか見る機会はないが、そこに至るには、様々な調査研究や、作業、調整、熟慮がある。本講義では、展示・展覧会を製作する工程を通じ、展示・展覧会の存在意義を考える。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	①博物館展示の歴史と現状および課題について論じることができる。				
2	②展示パネルを作ることができる。				
3	③博物館・美術館で観覧する展示・展覧会を製作する工程を概観し、学芸員として、どのような知識、能力、準備、作業が必要か理解し応用することができる。				
4	④今後、博物館・美術館の展示はどうあるべきか、どのような展示が社会、人々に必要とされるか論じることができる。				
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポートまたは試験 (80%)				1/2/3/4
2	授業態度 (小レポート、実習、演習への取り組み方) (20%)				1/2/3/4
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
<p>考古学・歴史学分野における研究成果の発信・普及啓発事業に携わっていた経験から、講義では博物館展示における考え方や方法についての現状と課題を考える。そして演習や実習では、展示を「見る側」と「作る側」の両者の視点から、自らが実践したい展示方法について議論し、展示を作成する。これらを通して、学生に今後の博物館展示に必要とされるものとは何か、あるべき姿とはどのようなものなのか、について考えてもらい、学芸員資格取得後の実践イメージの構築を促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1	講義	博物館と展示の種類			
2	講義	展示とは何か			
3	講義	展示空間の構成			
4	講義	展示の芸術性			
5	講義	展示の科学			
6	講義	展示の解説と造形			
7	講義	展示の照明技術			
8	講義	展示の図録			
9	講義	展示における学び			
10	講義	展示をつくる (パネル文章)			
11	実習	展示をつくる (パネル制作)			
12	実習	展示をつくる (レイアウト)			
13	演習	博物館見学 (考古)			
14	演習	博物館見学 (資料収蔵)			
15	演習	博物館見学 (美術)			

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で、内容に関する参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。特にレポート試験では、小レポートと講義・演習・実習および博物館見学で深めた知識を用いて、多角的かつ発展的な論述を望む。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> なし  <参考書等> 講義中に紹介する
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s8312@m.ndsu.ac.jp
留意事項 実際の博物館等を見学しながら学ぶ講義がある（入館料が自己負担となる場合もある）。

博物館教育論				単位数	2単位
授業コード	16741	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>教育機関としての博物館・美術館の役割を理解する。博物館・美術館は地域社会とどう連携するかを理解する。博物館教育論には大きく二つ①子供向けカリキュラム②大人向けのカルチャーセンター的役割がある。市民が博物館を日常的に活用できるような工夫が重要である。その為には義務教育制度として博物館を学校教育に位置づけていく事、大人の博物館ボランティアを社会制度として位置づけていく事が望まれる。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育機関、生涯学習機関としての博物館・美術館の役割を説明できる。				
2	学校教育における、博物館・美術館の存在を具体的に提起できる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート(2回) 100%				1/2
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策を実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館学と教育制度Ⅰ-教育の本質及び目標と博物館-</li> <li>2 博物館学と教育制度Ⅱ-学校教育と博物館教育-</li> <li>3 博物館が学校教育に占める役割についてⅠ-博物館教育の構造-</li> <li>4 博物館が学校教育に占める役割についてⅡ-学校教育と博物館の連携・協力-</li> <li>5 博物館における教育評価の目標と方法-ワークシート、体験型学習の具体例と成果-</li> <li>6 立体化した教科書としての博物館Ⅰ-博学連携の実践例-</li> <li>7 立体化した教科書としての博物館Ⅱ-古代出雲歴史博物館の教育普及事業から学ぶ-</li> <li>8 博物館・美術館と生涯学習Ⅰ-生涯学習の意義と取り巻く環境-</li> <li>9 博物館・美術館と生涯学習Ⅱ-生涯学習を支える組織-</li> <li>10 博物館の機能と現状</li> <li>11 博物館利用者と学芸員-博物館と地域社会との関係-</li> <li>12 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅰ-博物館利用者と学芸員-</li> <li>13 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅱ-今後期待される学芸員による学習支援-</li> <li>14 生涯学習の指導者としての学芸員Ⅲ-大阪歴史博物館の教育普及活動から学ぶ-</li> <li>15 学芸員の未来像-学校外教育の場-</li> </ol>					

試験等
レポート2回
試験のフィードバックの方法
授業中もしくはmanaba等で要点を含め解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書等> 『授業に役立つ古代出雲歴史博物館活用の手引き』 『なにわ歴史博探検 大阪歴史博物館の利用の手引き』 『島根県立古代出雲歴史博物館 常設展示ガイド』 上記3冊を学芸員課程から貸出。
オフィスアワー
授業中に指示する。 質問は随時、電子メールでも受け付ける。
連絡先
kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、ただ聞くというのではなく、考えながら聞くという姿勢で、授業に参加するようにして欲しい。リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。疑問点には次の授業で触れるようにする。

博物館情報・メディア論				単位数	2単位
授業コード	16751	科目ナンバリング	550Z0-2000-x2	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	村田 麻里子				
時間割備考	2024/9/10~13				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>博物館そのものがメディアであることを考えるマクロな視点と、そうした視点を元に、博物館の収集・保存・展示その他の活動においてどのように情報が構成されていくのかを考えるミクロな視点を獲得し、両者を有機的につなげていくことを目指す授業である。</p> <p>博物館は、常に「モノ」とそれを取り巻く「情報」を扱い、それによって様々な「意味」を媒介させているメディアである。授業では、このプロセスについて、博物館の具体的な活動を通してひとつずつみてゆく。その際に重要になるのは、メディア・リテラシー論、オーディエンス研究、アクセシビリティの概念、アーカイブの思想などである。さらに、デジタルメディアやソーシャルメディアの活用や影響について検討し、プラットフォーム時代を迎えた博物館が、新しいメディア環境のなかで自らの活動をどのように再定義しうるのかを考える。</p> <p>授業は講義のみならずワークショップ、グループ作業、博物館への訪問などを組み合わせて、なるべく理論と実践を往復運動させることを心がける。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博物館がメディアであることを理解し、博物館の活動をメディア論的な視点から捉えることができる。				
2	博物館が活動の一環として使用する情報機器、デジタルメディア、ソーシャルメディア等の意義を理解し、その活用について多角的な視点から考えることができる。				
3	プラットフォーム時代の博物館がどのようなメディア環境に置かれているのかを考えることができる。				
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加度・貢献度 60%				1/2/3
2	グループ発表 20%				1/2/3
3	レポート 20%				1/2/3
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス 2 博物館はなぜメディアか 3 「メディアとしてのミュージアム」の系譜 4 博物館の送り手・受け手とメディア・リテラシー 5 来館者研究の系譜 6 来館者調査の技法 7 アクセシビリティとはなにか 8 アクセシビリティを評価する 9 アーカイブの思想とドキュメンテーション 10 博物館と知的財産権 11 博物館におけるICT 12 博物館とソーシャルメディア 13 プラットフォーム時代の博物館 14 博物館とメディア社会 15 まとめ					

試験等
課題レポートを提出
試験のフィードバックの方法
講義中に指示する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
1. 授業で配布したプリントを活用して各自復習・振り返り作業を行うこと。また、参考図書や参考URLも提示するので、こまめにチェックしてほしい。 2. 授業で獲得した視点を教室の外でも意識し、博物館への理解を深めてほしい。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書等> 大堀哲・水嶋英治『博物館学III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』学文社、2012年。 カセム、ジュリア『光の中へ-視覚障害者の美術館・博物館アクセス』小学館、1998年。 ディーン、デビッド（著）北里桂一（監訳）山地秀俊・山地友喜子（訳）『美術館・博物館の展示』丸善株式会社、2004年。 西岡貞一・篠田謙一（編）『博物館情報・メディア論』NHK出版、2013年。 日本教育メディア学会（編）『博物館情報・メディア論』ぎょうせい、2013年。 日本展示学会（編）『展示論-博物館の展示をつくる』雄山閣、2010年。 ハイン、ジョージ.E（著）鷹野光行（訳）『博物館で学ぶ』同成社、2010年。 浜田弘明『博物館の理論と教育（シリーズ現代博物館学1）』朝倉書店、2014年。 広瀬浩二郎『さわって楽しむ博物館-ユニバーサル・ミュージアムの可能性』青弓社、2012年。 村田麻里子『思想としてのミュージアム-ものと空間のメディア論』人文書院、2014年。 村田麻里子『メディアとしての空間』『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』長谷川一・村田麻里子（編著）三省堂、2015年。 Orna E. & Ch. Pettitt（著）安澤秀一（監訳）水嶋英治（編訳）『博物館情報学入門（アート・ドキュメンテーション叢書）』勉誠出版、2003年。
オフィスアワー
質問は授業後に受け付ける。メールでの問い合わせの場合は、件名に必ず学校名と授業名を書きこむこと。
連絡先
mmurata@kansai-u.ac.jp
留意事項
講義内容に合わせ、適宜博物館見学等を行うので、集合時間や集合場所などに気をつけること。

博物館実習				単位数	3単位
授業コード	16760	科目ナンバリング	550Z0-3000-x3	開講年度学期	2024年度第1期、2024年度第2期
担当者氏名	紺谷 亮一、横山 定				
時間割備考					
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	複数				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
博物館資料はどれだけのことを語りえるのか。博物館や学芸員は文化財と来館者とをつなぐパイプ役として、どのような文化的な役割と社会的な責任を負っているのか。本授業では、これらについて考えながら、多岐にわたる学芸員の実務を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博物館や学芸員の多様な仕事について総合的に理解し、説明できる				
2	博物館資料を実際に扱うことができる				
3	カメラの操作等に関する技術を実行できる				
4	展示やギャラリートークなどを企画、実行できる				
5	感性を磨くとともに、学芸員としての自覚を高め、応用できる				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表・レポート	60%	1/4/5		
2	実務(館務)実習	30%	1/2/3/4/5		
3	授業態度	10%	1/2/3/4/5		
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
岡山市立オリエント美術館の学芸員として博物館業務に携わっていた経験、また岡山県立博物館の学芸員(副館長)として博物館業務に携わっている経験から、今日の博物館のあり方を多角的に取り上げ、将来的な新たな博物館像を創造する、実行可能な解決策の違いを実証していく。そして、学生に具体的な問題解決プロセスの実践的構築を促す。					
日本語以外の言語による授業					

授業予定一覧	
1	演習・基礎 博物館法や博物館の環境管理を確認しよう
2	実習・体験 考古資料の取り扱いをしてみよう1-土器-
3	実習・体験 考古資料の取り扱いをしてみよう2-ガラス器-
4	実習・見学 岡山シティミュージアム
5	実習・見学 岡山大学埋蔵文化財センター
6	実習・見学 岡山市オリент美術館
7	実習・体験 考古学の現場1 -多視点写真測量実習（ラジコンヘリカメラ）-
8	実習・体験 考古学の現場2 -多視点写真測量実習（ポールカメラ）-
9	実習・体験 展覧会を企画しよう1 -担当教員監修展覧会イラン展を元に-
10	実習・体験 展覧会を企画しよう2 -担当教員監修展覧会アッシリア展を元に-
11	実習・体験 展覧会企画のプレゼンテーションをしよう1-発表-
12	実習・体験 展覧会企画のプレゼンテーションをしよう2 -発表と評価-
13	実習・基礎 展覧会カタログについて学ぼう
14	実習・体験 博物館実務（館務）実習館の事前調査をしよう
15	実習・体験 調査結果のプレゼンテーションをしよう
16	実習・見学 岡山県内の博物館・美術館見学
17	講義 第Ⅰ期 まとめ
18	演習・体験 史料の取り扱いをしてみよう1-基本編-
19	実習・体験 史料の取り扱いをしてみよう2-応用編-
20	演習・基礎 文化財の搬送の基本を知ろう
21	演習・基礎 実際の展示作業から取り扱いの要点を学ぼう
22	演習・基礎 展示体験1 展示室の特徴を把握しよう
23	実習・見学 展示鑑賞と展示室や設備を知ろう （岡山シティミュージアム）
24	実習・体験 展示体験2 平面図を考えよう
25	実習・体験 展示体験3 パネル等制作の基本を体験しよう
26	実習・体験 展示体験4 自分の力でパネルを作ろう1-製作-
27	演習・基礎 展示体験5 自分の力でパネルを作ろう2 -製作と調整-
28	実習・体験 展示体験6 パネルを展示してみよう
29	演習・基礎 展示体験7 展示を完成させよう -照明や展示案内など-
30	実習・体験 展覧会チラシについて考えよう
31	演習・体験 文化財の写真を撮ろう1-立体物-
32	実習・体験 文化財の写真を撮ろう2-平面のもの-
33	演習・基礎 普及活動とグッズやカフェの魅力
34	演習・基礎 広報・連携と博物館を支える人びと
35	講義 第Ⅱ期 まとめ
試験等	
発表・レポート、実務（館務）実習によって総合的に行う。	
試験のフィードバックの方法	
授業中もしくはmanaba等で指示する。	
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間	
（予習）次週に予定されているテーマに関して、関連する話題をまとめておくこと。 （復習）毎回の授業内容、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。 予習・復習で2時間程度が望ましい。 自主学習や自主的な博物館・美術館訪問など、関心を持って取り組んで欲しい。	
必携書（教科書販売）	
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考	
必携書・参考書（教科書販売以外）	
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考	
オフィスアワー	
授業中に指示する	
連絡先	
紺谷：kontani@post.ndsu.ac.jp 横山：okbunkaisan@gmail.com	
留意事項	
第Ⅰ期は紺谷亮一教授、第Ⅱ期は横山定講師（岡山県立博物館学芸員・副館長）が担当する。本学での授業のほか「実務（館務）実習」を大原美術館・林原美術館等でおこなう予定である。「実務（館務）実習」は例年8日間程度実施される。「実務（館務）実習」には事前・事後の指導がともなう。	